

肝ぞう通信

第6号 《肝がんのステージングと治療アルゴリズムについて》

お知らせ

肝疾患医療センターは、肝疾患に関する心配事や悩み事のご相談にお応えしています。

当院では、総合相談室が窓口になっております。

場所：病院1階
総合相談室

受付時間：
平日 9:00～15:00
土曜日 9:00～12:00
(第2・4土曜日除く)

次回号

テーマ：
超音波検査の肝硬度測定について
11月発行予定

発行責任者

東海大学医学部付属病院
肝疾患医療センター長
加川 建弘

肝がんのステージング

肝がん(肝細胞癌)のステージング(進行度分類)はI～IVに分類され、腫瘍の個数、大きさ、脈管浸潤、リンパ節転移の有無、遠隔転移の有無によりT因子、M因子、N因子によるTNM分類によって決定されます。

T因子：①腫瘍が単発 ②2cm以下

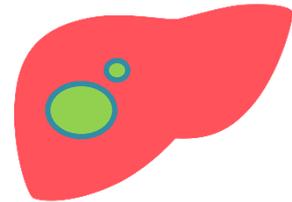
③脈管侵襲なし

該当項目が3個 → T1

該当項目が2個 → T2

該当項目が1個 → T3

該当項目がなし → T4



N因子：リンパ節転移があればN1、なければN0

M因子：遠隔転移があればM1、なければM0

図のような肝がんの場合、腫瘍が2個あり、2cm以上、脈管浸潤のないと、T因子の該当項目は1個→T3
リンパ節転移なしでN0、遠隔転移なしでM0とするとT3N0M0という分類になります。

	M0		M1
	N0	N1	N0,N1
T1	I	IVA	IVB
T2	II		
T3	III		
T4			

T3N0M0の場合、ステージⅢということが判ります。